

【Vol.14】ヴァンヘイレンの曲から学ぶ、トライアドの実戦譜例

こんにちは、大沼です。

今回は、Van Halen (ヴァン・ヘイレン)の Panama(パナマ)と言う楽曲を参考に、トライアドの事例と、分数コードの仕組みについて学んでいきましょう。

この曲はかなり有名な曲なので、もしかしたら、どこかで聴いたことがあるかもしれません。

たまにTVとかでも使われてたりしますし。

トライアドは最もシンプルなコードの単位ですが、(※パワーコードを除く)上手く使えると、かなり印象的なフレーズが作れたりします。

さらにスケールと共に、今後の講座(というか音楽全般)でやっていく事の基礎になりますので、しっかりとマスターしていきましょう。

前回や今回の様な実戦的な譜例は、これで学んできた内容全てを使うものです。

学習したものをしっかり理解しているかどうかで、習得スピードが大きく変わりますので、怪しいところがあったら、以前のテキストに戻って復習しておきましょう。

今後、学んでいく内容も、過去のものをずっと積み重ねていった先の話になりますので。

では、参考にする楽曲は以下です。

サンプル楽曲、Van Halen - Panama

Youtube 原曲リンク

<http://youtu.be/w-NshzYK9y0>

※万が一、リンク先の動画が削除されている場合は、音源を購入するか、曲名等で検索してください。

譜例 1、Van Halen-Panama 風フレーズ 0:11～※原曲は半音下げです。

The image shows a musical score for S-Guitar in E major, 4/4 time. The score is divided into two systems. The first system starts with an E chord and a melody line. The second system shows a D chord, an A chord, and an E chord. Fingering and tablature are provided for both systems.

さて、前回、新しい曲やフレーズを練習する時に、最初にやるべきことを1つ、お話ししましたね。

なんだったか覚えていますでしょうか？

そうです。**コード進行の確認**です。

楽器のフレーズは、それぞれのコードに合わせて作られているので、フレーズは、コード進行と照らし合わせながら、セットで覚えるのです。

上の譜面に出てくるコードは、E、D、Aの3つですね。

ですが、トライアドの構造について理解していたら、コード進行の表記とは完全には合わないトライアドのフォーム(ヴォイシング)があることに気がつくと思います。

そう、ここですね。

The image shows a musical score for S-Gt in 4/4 time, key of A major. The score is divided into two systems. The first system is for an E chord, with a guitar staff and a TAB staff. The second system shows chords D, A, and E. Red boxes highlight specific fret numbers in the TAB staff that do not match the chord diagrams above them.

赤枠で囲った部分は、鳴らしている音が、コード表記の構成音には完全には合っていないね。

この辺は正直なところ、プレイヤーの解釈しだいになってくるんですが、上の譜面のコード表記でも、間違っているわけではないのです。

例えば 1～2 小節目の E コードの場所。

そこに出てくる赤枠のコード(と言うかフレーズの動き)は、大きな解釈で見れば、『E のコード進行の中で、音(フレーズ)を色々動かしている』ともいえます。

ちょっと難しいかも知れませんが、まあ、「別におかしなことをしているわけではない」くらいに思っていてくれれば OK です。

では「大きな解釈で見れば OK」ならば、細かく見たらどうなるのか？

次の譜面を見てみましょう。

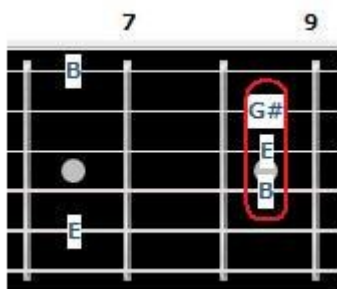
譜例 2

The image shows a musical score for S-Gt (Solo Guitar) in E major, 4/4 time. The score is divided into two systems. The first system starts with a treble clef and a key signature of three sharps (F#, C#, G#). The first measure is a whole rest. The second measure is marked *mf* and contains a chord E. The following measures contain chords E, Esus4, E, B/E, and E. The second system contains chords D, Dsus4, D, A, and E. The guitar tablature (TAB) is provided for the strings T, A, and B, showing fret numbers and bar lines.

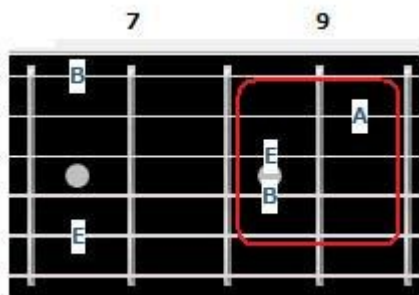
弾いているフレーズの動き全てに、律儀にコード解釈をつけるとこんな感じになります。

1つずつ見ていきましょうか。

まず、4、3、2弦の9フレットのEのトライアドは、そのまんまなのでわかりやすいですね。



次の Esus4 も普通に sus4 のコードフォームそのままです。

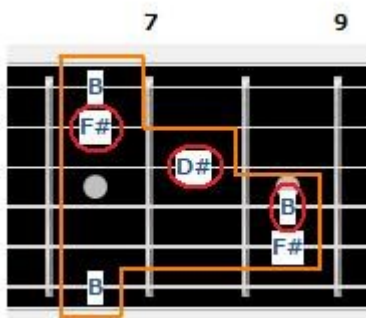


1~2 小節間では、E と Esus4 の 2 つのコードを行ったり来たりしている感じです。

で、問題なのが、次の B/E というコード。

ここで弾いているのは B コードのトライアドですね。

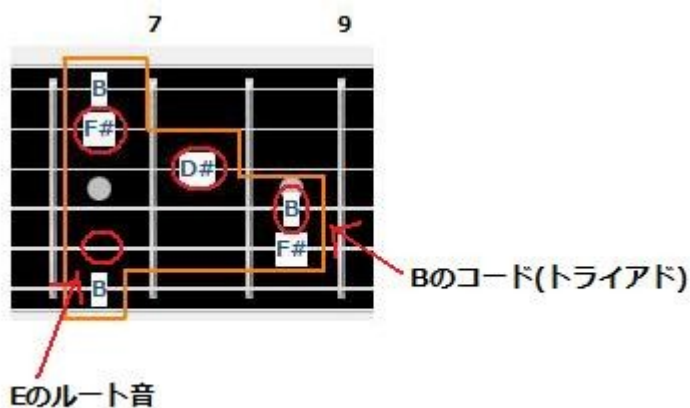
この、6 弦 7 フレットの B 音をルートに見たバレーコードから考えるとわかりやすいでしょう。



フレーズとして、トライアドは B を弾いているけれど、その小節内での大きな解釈では、E コードがずっと続いていると解釈しても良い、と先に言いましたね。

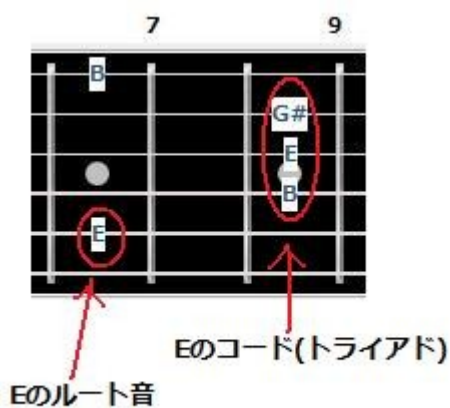
要するに、コード進行を、フレーズ一塊で大きく見るならこうで、

B/E の仕組み



※最初の2小節全体で見たら、コード進行はEと解釈して、
その中で、トライアドがBに動いていると考える。なので(コード構成→)B/E(←ルート音)。

EコードをE/Eっぽく見る



後は、例えばこの B/E という分数コードを他の表記にすると、BonE(びーおんいー)みたいに書かれることがありますが、この場合はオンコードと呼ばれます。

分数コードとオンコードは、正確に音楽理論で解説すると違うものなのですが、
ギターで演奏する場合は、どちらでもほぼ同じような事をする、とっていてOKです。

ですが、「本当は(その時の場面によっては)違う」、と言う事をわかった上で演奏してくださいね。

この分数コードの表記は、演奏しているジャンルやコードの構成、
後は文脈によっても解釈が変わるので、詳しく知りたい人は、
『アッパー・ストラクチャー・トライアド』などのキーワードで調べてみましょう。

ピアノのように一度に沢山の音を出せる楽器だと、奏法の面も含めてちょっと話が変わってくるんですが、ギターは一度に最大で6音しか出せないのも、分数コードでも、オンコードでも、やることがあまり変わりません。(※やろうと思えばなんとか対応出来ない事もないですが)

後は、分数コードの上でソロをとる時などは、色々と解釈が必要だったりもしますね。

とは言え、詳しく解説するとジャズ理論のようになってくるので、今回は割愛します。

ギタリストは大体、B/E と BonE のどちらも『びーおんいー』と呼ぶし、そう考えて弾いていることが多いです。(特にロック、ポップスのジャンルでは)

分数コードとオンコードの仕組みはちょっとややこしいので、今後も例にする譜例で出てくるたびに、必要に応じて解説していきます。

さて、ここまで、コードが E の小節の範囲(最初の2小節)で解説してきましたね。

譜例では、その後にコードが D になっている場所もありますが、そこも E の部分と同じ解釈で大丈夫ですので、コードとトライアドの関係を分析してみてください。

今回の譜例で学んで欲しいのは、

- ・トライアドのようなシンプルなコードでも、このくらい印象的なフレーズが作れること
- ・分数コード(とオンコード)の仕組み
- ・コード進行とフレーズの関係性の分析

この3つですね。

このテキストでやったような考え方を理解していると、今後覚えていく音楽理論(特にコード理論)の理解と習得が速くなります。

今まで弾いたことのある曲や、持っている譜面(スコア)で分数コードが出てきたりしたら、そのフレーズ(とコード)を分析してみましょう。

きっとそのフレーズがどうなっているのか？が理解できると思います。

全体的に少し小難しい話になったので、わかりにくかったら、質問を送ってくださいね。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼